

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度 第2回 所沢市環境審議会
開 催 日 時	平成27年11月19日(木) 10:00~11:45
開 催 場 所	市庁舎 高層棟5階 501会議室
出席者の氏名	田中充、毛利吉成、天野正博、足立圭子、 秋元智子、上田マリノ、北田律子、永島裕久
欠席者の氏名	松山謙一
説明者の職・氏名	
議 題	1 開 会 2 議 事 (1) ヒアリング調査結果について (2) 中間答申の構成について (3) その他 3 閉 会
会 議 資 料	・ 次第 ・ 資料1 ヒアリング調査結果 ・ 資料2 本市における課題について ・ 資料3 環境政策の効果的な推進方策について(中間答申)のポイント ・ 資料4 今後のスケジュールについて ・ 参考資料 温暖化対策に係る取り組み状況 ・ 参考資料 「地球温暖化対策実行計画」前期計画期間のまとめ
担 当 部 課 名	環境クリーン部 部 長 越阪部 孝夫 次 長 大澤 稔 環境政策課 課 長 大舘 真哉 主 幹 安藤 善雄 主 査 肥沼 克年 主 事 中林 謙太 主 事 溝越 弘倫 環境クリーン部環境政策課 電話 04-2998-9133

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
安藤主幹	開会・あいさつ
会 長	あいさつ
安藤主幹	出席者が全委員の過半数に達しているため、審議会規定により会議の成立を確認。 傍聴者はなし。
事務局	＜意見交換会の概要について事務局より説明＞
事務局	＜資料1 ヒアリング調査結果について事務局より説明＞
委 員	「市民共同発電事業」は設置したことによる利益は出るのか。
委 員	私たちが行っている市民共同発電は、県の補助金をいただいて一緒に実施しているが、ファンド化はしておらず寄付という形のため、フィードバックはできずFITによる利益も出ない。そのため、寄付していただいた方の名前等を様々なところで公表している。また、当団体は認定NPO法人なので、大口の寄付であれば、税額控除のようなメリットもある。
委 員	所沢の地形は非常に起伏があり、普通の自転車では不便。トトロの森には観光客もいらっしゃるので、電動自転車を普及させてレンタサイクルのようなシェアはどうか。
委 員	提案した電動自転車への補助金制度は、一主婦としての意見であり、价格的に手が出ない部分大きい。 補助金制度の普及によって、近場に行くにも自動車を使っている主婦を自転車にシフトさせていけないのではないか。
委 員	エコというと太陽光発電をイメージしがちだが、一番不安なのは廃棄する時のことで、家庭ならば個人で責任が取れるが、公共の場合はどうするのか。 また、雑木林を伐採してのメガソーラーの設置は果たして低炭素化なのか疑問。個人的には止めてほしい。

	<p>エコタウン＝太陽光発電ではないと思う。</p> <p>設置するのであれば、松が丘の公共地につけるのではなく、節電効果の見える各家庭につけた方が良い。</p> <p>委員 現在は、今から工事を始めないと補助金がもらえなくなるという、駆け込み的な需要が多いが、一方で、太陽光発電が前に出すぎないように、買取制度の入札方式が検討され、太陽光発電の抑制の動きもある。しかし、また5年後はどう拡大・普及していくかということを考えなければならず、今は特異な時期にある。</p> <p>また、森林は二酸化炭素を吸収するが、メガソーラー事業にあるような経済的インセンティブは無い。今後、どのように森林分野に経済的インセンティブを与えていくのかを行政も考えていくと良い。</p> <p>委員 さいたま市ではすでに「こどもエコ検定」を実施している。さいたま市では環境教育の副読本を作成しており、これに則したものや、市内の環境について学校で学んでいる。</p> <p>同じ内容でなくても、所沢市においても実施可能なのでは。</p> <p>委員 「エコ＝太陽光発電ではない。」という意見に賛同。太陽光発電をつけることがエコに関心があるという風潮があるが、市民レベルでできる身近な環境配慮活動や、環境モラルの意識付けが大切だと感じる。</p> <p>また、「環境サミット」は啓発・認識・関心を高めてもらうために、こどもをターゲットに、学校教育又は市の事業で行っている「地球にやさしい学校大賞」とリンクさせながら実施出来れば良い。</p> <p>こどもからの発信で大人に波及させるようなことが重要だと思う。</p> <p>委員 太陽光パネルの処理問題は、普及啓発を継続することで技術の進歩につながり、今後解決していくのではないかと。</p> <p>茶畑ソーラーについては、静岡県に事例があり、所沢市と類似性もあるため、ソーラーシェアリングの発想も良い。また、天ぷら油は再燃料化率も良いため、回収場所を増やしても良いのではないかと。</p> <p>一方で、視覚や感性に訴えるアートの観点から、デザイナーやものづくりに携わる人には環境配慮設計についてもっと考えてほしいので、こどものころからデザインやアートに環境を絡めたものを学べる機会があると良い。</p> <p>自然観察会については、普段環境に興味の無いような人にも訴えかけられる機会を設けることも必要であるという考えからの提案である。</p>
--	--

委員	太陽光パネルの処理問題については、資源の再利用がきちんと出来れば解決できる。所沢市においても、今以上に分別収集を進めることが重要。
大館課長	分別にはコストはかかっているが、徹底的に行っている。 都市鉱山については、東部クリーンセンターでは溶融炉を持っており、希少金属等を取り出して販売している。ごみ処理については、お金をかけて行っている。
会長	リサイクル率はどれくらいか。
大館課長	28%程度。
委員	「こども環境サミット」については市が必ず取り組むと決めてなら実効性はあると思うが、「エコ」という言葉の定義が人によって違っている現在なので、「こどもエコ検定」は待ってほしい。
会長	「エコ検定」が時期尚早というのはどういう意味か。
委員	今年度の「地球にやさしい学校大賞」受賞校において、他の土地から持ってきたホタルを飼育するという環境教育を行った学校があり、保護者からは疑問の声が上がっている。 「地球にやさしい学校大賞」はもう少し考えるべきであり、このような現状では「こどもエコ検定」は時期尚早だと考える。
委員	個人的には、「こどもエコ検定」については「こども環境サミット」から派生するイメージ。以前、こどもたちの書いた環境に関するポスターを見た時に、端的だが非常に強いメッセージ性を感じたことがあり、こどもたちが自主的に問題意識を持つことを期待している。 大人たちがしっかりと環境モラルを持ったうえで、それをこどもたちに伝えていかなければならない。そのためには、太陽光発電＝エコという短絡的な発想ではなく、基本的なしっかりとした考え方を持つために、こどもからの問題提起が有効なのではないか。
委員	この議論は、低炭素化・CO2削減ということで、普及啓発の面と技術的な面の両面から考えていかなければならない。普及啓発については、こどもからお年寄りまで幅広い世代に普及啓発をしていくことが重要。その手段として「市民共同発電」や環境学習のようなソフト的な事

	<p>業の取り組みが必要。また、確実に CO2 削減をするためには技術的な分野も入れていかなければいけない。</p> <p>市として施策をどのように導入していくかは議論が必要で、エコ検定一つでも議論が分かれる中、どこに焦点を当てるのか考えていくべき。技術面については、市民共同発電は太陽光発電の普及啓発の手段として私どもは行っていて、太陽光発電をどういった手段として使うのかも議論が必要。ダメな部分を議論するのではなく、どういった手段で使うのかなどの合意形成をしていくことが重要だと思う。</p> <p>優先順位を考えて、まずは身近なところからできる効果の高いものから取り組んでいき、あらゆることを試した方が良い。</p> <p>手段とソフトと技術と議論をきちんとミックスさせて進めていかないと、市民の合意形成は得られない。</p>
委員	<p>エコ検定に関しては、競争心をあおるような検定ではなく、考え方やセンスを勉強できるような事業にしてほしい。こどもたちに偏った考え方を押し付けるのではなく、事実を教えていくことが大事。</p> <p>断片的な CO2 削減活動として取り組んでいくのでは意味がない。</p> <p>電動自転車の補助金制度は、補助金額など効果的な実施が難しい。</p>
委員	<p>金額に関わらず、化石燃料の使用を削減するという思想にはつながる。</p>
委員	<p>電動自転車が増えることが環境問題に本当に効果的なのか疑問。効果があるかどうか煮詰めてから施策をスタートしていくことが大事だと思う。</p>
委員	<p>軽自動車に乗るのであれば電動自転車の普及は効果的。補助金制度の効果については、立地条件など地域差があるので一概には言えない。</p>
会長	<p>いただいたアイデアは、プラスの面、マイナスの面がある。また、多面的に評価することや優先順位を考えるとといったご指摘があった。現在の市の実態からみたときに、どういった戦略を立てるかが重要。</p> <p>審議会として諮問を受けている中で、具体的な提案を行い、市の取り組みに結び付けようと考えている。</p>
事務局	<p><資料2 本市における課題について事務局より説明></p>
会長	<p>資料2について、課題の整理の仕方など忌憚ないご意見をいただきたい。</p>

<p>委員</p>	<p>所沢市のターゲットは家庭なのか、産業なのか、両方なのか。また、直接 CO2 を削減するための事業提案がいいのか、市民の意識やライフスタイルを変えるようなソフト的な部分に力を入れた事業提案がいいのか。</p>
<p>大館課長</p>	<p>市民レベルでできる活動を取りまとめていけないかということでご意見を伺った。</p> <p>直接 CO2 を減らす工夫はもちろん重要だが、マチごとエコタウン所沢構想内でも記述のある「ライフスタイルの変化」に係るソフト事業も充実させていきたい。</p> <p>ソフト・ハードの両面があっても良いのではないか。ただ、市民ができる活動の範疇でご提言をいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>参考資料を見ると、民生部門の排出量が多く、これについては日本全国の課題である。また、一見すると家庭部門が増加しているように見えるが、これは排出係数が増加していることに起因する。しかし、排出係数を固定した場合、業務部門に比べて家庭部門の下がり幅が小さいのが所沢市の問題。業務部門は強制力が働いて削減せざるを得ないため、年平均で約 1%削減されているが、家庭部門は自主努力であり、業務部門に比べて約半分しか削減されていない。</p> <p>ソフト事業のターゲットはここになるが、環境行動指針が市民の環境配慮行動につながるかはギャップがあり難しい。</p> <p>ソフトとハードの中間でどのように市民にインセンティブを与えるような仕掛けを作っていくかが重要。電動自転車の補助金を例にすれば、まず自動車と自転車の車道を整備するなどの仕掛けをして、ソフト面が有効になる。</p>
<p>委員</p>	<p>事業者は所沢市以外の規制のない地域の事業者との競争もあり、直接事業者規制をするのは難しい。市民をターゲットにした方がやり易い。</p> <p>また、今までの実績で計算すると、メガソーラーと屋根貸しでは屋根貸しの方が効率的であり、パネルの性能等も影響していると思うが、これでは屋根貸しをもっと進めるべきとなりかねない。事実ならそれでいいが、施策の選択に響くので理由は精査しておく必要がある。</p> <p>屋根貸しは防水コストがかかるのではないか。</p>
<p>大館課長</p>	<p>当市の屋根貸しは工夫がされていて、基礎を打っておらず、防水加工は屋根を傷つけない形になっており、県内でも珍しい施工になっている。</p>

事務局	<p>発電効率の問題では日当たりが大きく影響しており、屋根貸しについては、周囲に遮るものがないため日当たりが良く、この結果、メガソーラーと2割程度の差が生じている。</p>
委員	<p>太陽光発電は、個人宅に設置するとモニターの効果もあり、節電につながりやすい。</p>
委員	<p>太陽光発電は、家庭用だと自家消費が優先で、余剰分を売電するのが一般的。FITを使って全量買い取りにすると、電力会社に全部売り、また電力会社から買うことになり、本末転倒のような気がする。家庭用を自家消費するような仕組みを進めていくべき。</p>
会長	<p>補助金を交付した人に対して、その後の意識調査等を行っているのか。</p>
事務局	<p>そこまでは行っていない。</p>
委員	<p>我が家も太陽光発電を行っているが、周りの人からは「もとが取れないのでは」と言われる。設置するのに費用が掛かることだけがイメージとして先行している気がする。</p> <p>損得ではなく、設置することが環境に貢献しているというアピールが足りないと思う。</p>
会長	<p>資料2という形で、皆さんからいただいた提案を6つの課題に分けている。あくまでこれは、一つの整理の仕方なので、追加のご意見等はあると思う。</p> <p>ソフト面かハード面か、あるいは短期的な施策か、中長期的な施策かについては気にせず提言していきたいと思う。</p> <p>では、資料3について事務局より説明を。</p>
事務局	<p><資料3 中間答申の構成について事務局より説明></p>
会長	<p>資料3は、今年度末の中間答申を考えたときに、4つの構成を考えているということで、1つ目の「現状の取り組み」は、環境基本計画に掲げる温暖化対策の分野から記載する。2つ目の「本市における課題」については、所沢で現在求められている、あるいは緊急に実施する必要があるような改善すべき課題を整理した方が良い。3つ目は、どのような分野で、何をしたら良いかを具体的に記載する。4つ目は、これ</p>

	<p>らを進めるうえでの制度作りに関して、市民の行動指針や温暖化対策条例等を考える。この部分については次年度に集中的に審議していく。</p> <p>以上のような整理の仕方を考えているが、いかがか。</p> <p>委員 課題については、資料2だけでは貧弱な感じがする。現在、COP21に係る政府の提案が出ている。これを参照してみてもどうか。</p> <p>会長 課題については、資料2にあるような対策の取り組み項目や取り組みの方向性ではなく、現在、所沢が直面している課題や、改善を求められている問題点を書いた方が良いと感じる。</p> <p>また、委員は自分の立場で見てしまうので、限られた狭いスコープで課題を認識してしまう。課題認識をどう整理するかは重要な問題であるので、一点に偏らないよう注意が必要だと感じる。</p> <p>大館課長 では、一般的な課題になってしまうとは思いますが、一旦、事務局で課題を整理したものを委員の皆様にご覧いただき、ご意見をいただきたいと思う。</p> <p>委員 所沢の特徴から読み取ると、ライフスタイルの見直しなどは、ターゲットをファミリー層などに決めてそこから普及啓発をしてみた方が良いと感じた。いずれにしても、ターゲットを明確にして進めていく必要がある。</p> <p>委員 現段階では、市民レベルで実施ができる環境配慮活動にターゲットを絞った方が良い。来年以降は、パリ議定書を受けての政府の政策等をにらみつつ、国からの補助金とどのようにタイアップさせていくかを考えていった方がうまくいくと思う。今はそれに向けた最初のステップで、これから所沢市で展開していく環境政策をどう市民に支持してもらうかを意識し、環境審議会で助言ができれば良い。</p> <p>会長 課題や取り組みの方向性については、ひとまず例として挙げ、今後、議論を深めていくうえで追加等の検討を進めていきたい。</p> <p>委員 市民啓発については、メリット感を出すような誘導策が必要。エコポイントやエコマネーのような地域活性化にもつながるようなものがあると良い。</p>
--	---

委員	所沢市は取り組み自体は良いので、上手なアピール方法を考えた方が良い。
委員	市内の大学生やシルバー人材センターなども活用しながら、市民に知ってもらえる場面の創出ができれば良いのではないかな。
委員	補助金は特定の人しか利益が得られないという面があり、予算の効果的な活用方法が他にあるのでは。
大館課長	おっしゃる通りで、対象機器を購入できる人が限られるため、補助金だけではいけないと考えている。現在、市民の省エネ活動を表彰するエコファミリー大賞のような事業も行っており、補助金についてはこのようなソフト事業と組み合わせる必要があると考えている。
委員	補助金などはメリットがある。これがソフトにつながるような仕組みを考えていければ良い。
会長	資料2・3を組み合わせながら次の段階に進めたいと思う。 資料4「今後のスケジュール」について事務局から説明を。
事務局	<資料4 今後のスケジュールについて事務局より説明>
会長	本日も議論いただいた具体的な施策の方向性に加えて、今後の制度作りが中間答申の柱になりそうなので、この点についての中間答申の案を作成させていただき、皆さんからご意見を頂戴するという段取りで進めていきたい。
	閉 会